Computing k-binomial equivalence & avoiding binomial repetitions

Michel Rigo

http://www.discmath.ulg.ac.be/ http://hdl.handle.net/2268/187305 28th October 2015



・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

The notion of binomial coefficient of words is classical in COW. See, for instance, Sakarovitch & Simon, Lothaire.

 $\begin{pmatrix} w \\ x \end{pmatrix}$ number of times x appears as a (scattered) subword of w

i.e., \boldsymbol{x} occurs as a subsequence of \boldsymbol{w}

We count the number of increasing maps $\varphi:\{1,\ldots,|x|\}\to\{1,\ldots,|w|\}$ such that

 $\varphi(1) < \cdots < \varphi(|x|)$

 $w_{\varphi(1)}\cdots w_{\varphi(|x|)} = x$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

$$\binom{aabbab}{ab} = 7$$

It generalizes the usual binomial coefficients for integers

$$\binom{a^m}{a^n} = \binom{m}{n}, \quad m, n \in \mathbb{N}$$

Observe that
$$egin{pmatrix} w \\ a \end{pmatrix} = |w|_a, \quad a \in A$$

・ロト ・日下・ モー・ モー・ うへの

We can easily compute coefficients:

$$\begin{pmatrix} w \\ \varepsilon \end{pmatrix} = 1, \qquad \begin{pmatrix} w \\ x \end{pmatrix} = 0, \quad \text{if } |w| < |x|$$
$$u, v \in A^*, a, b \in A, \quad \begin{pmatrix} ua \\ vb \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} u \\ vb \end{pmatrix} + \delta_{a,b} \begin{pmatrix} u \\ v \end{pmatrix}$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□ ● ● ●

Definition

Let $k \ge 1$. Two words u, v are k-binomially equivalent

 $u \equiv_k v$

if and only if

$$\begin{pmatrix} u \\ x \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} v \\ x \end{pmatrix} \quad \forall x \in A^{\leq k}.$$

Remark: 1-binomial equivalence = abelian equivalence.

One also finds the notion of *k*-spectrum of a word u which is the (formal) polynomial in $\mathbb{N}\langle A^* \rangle$ of degree k

$$\operatorname{Spec}_{u,k} = \sum_{x \in A^{\leq k}} \begin{pmatrix} u \\ x \end{pmatrix} x.$$

Two words are k-binomially equivalent iff they have the same k-spectrum. \rightarrow full information.

EXAMPLE

The 2-spectrum of the word u = abbab is

$$\mathsf{Spec}_{u,2} = 1\varepsilon + 2a + 3b + aa + 4ab + 2ba + 3bb.$$

The 3-spectrum of this word is

$$\mathsf{Spec}_{u,3} = \mathsf{Spec}_{u,2} + aab + 2aba + 3abb + 2bab + bba + bbb.$$

Note that the k-spectrum contains

$$\frac{(\#A)^{k+1}-1}{(\#A)-1}$$
 (possibly zero) coefficients.

 \rightsquigarrow grows exponentially with k.

$$2+3 = \binom{5}{1}, \ 1+4+2+3 = \binom{5}{2}, \ 1+2+3+2+1+1 = \binom{5}{3}$$

In COW, there is a zoo of equivalence relations :

abelian equivalence (since Erdős in 1961)

 $abbacba \sim_{ab} cababba$

k-abelian equivalence (Karhumäki et al.)

$$|u|_x = |v|_x \quad \forall x \in A^{\leq k}$$

- k-binomial equivalence
- (Parikh) matrix equivalence (Salomaa et al. 2000)
- Simon's congruence (1975, Karandikar et al. 2015)

$$Supp(\mathsf{Spec}_{u,k}) = Supp(\mathsf{Spec}_{v,k})$$

applications to piecewise testable languages

Link with Parikh matrices.

 $A = \{a_1, \dots, a_k\}$. The Parikh matrix mapping $\psi_k : A^* \to \mathbb{N}^{(k+1) imes (k+1)}$

is the morphism defined by the condition: if $\psi_k(a_q) = (m_{i,j})_{1 \le i,j \le k+1}$, then for each $i \in \{1, \ldots, k+1\}$,

$$m_{i,i} = 1, \quad m_{q,q+1} = 1,$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

all other elements of the matrix $\psi_k(a_q)$ being 0.

DEFINITION

Two words are M-equivalent, or matrix equivalent, if they have the same Parikh matrix.

Example, #A = 2

Consider $A = \{a, b\}$. We have

$$\psi_2(a) = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \ \psi_2(b) = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

and

$$\psi_2(abbab) = \psi_2(a)\psi_2(b)\psi_2(b)\psi_2(a)\psi_2(b) = \begin{pmatrix} 1 & 2 & 4 \\ 0 & 1 & 3 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

▲□▶ ▲□▶ ▲目▶ ▲目▶ ▲□ ● ● ●

Parikh matrices for an alphabet of cardinality k encode

k(k+1)/2

of the binomial coefficients of a word w for subwords of length $\leq k$.

THEOREM (A. MATEESCU, A. SALOMAA, K. SALOMAA, S. YU 2001)

Let $A = \{a_1, \ldots, a_k\}$ be an (ordered) alphabet. Let w be a finite word and $\psi_k(w) = (m_{i,j})_{1 \le i,j \le k+1}$. Then

$$m_{i,j+1} = \begin{pmatrix} w \\ a_i \cdots a_j \end{pmatrix}$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

for all $1 \leq i \leq j \leq k$.

 \rightsquigarrow partial information : $\mathcal{O}(k^2)$ vs. $\Omega((\#A)^k)$

Example over $A = \{a, b, c\}$

$$\psi_3(w) = \begin{pmatrix} 1 & \binom{w}{a} & \binom{w}{ab} & \binom{w}{abc} \\ 0 & 1 & \binom{w}{b} & \binom{w}{bc} \\ 0 & 0 & 1 & \binom{w}{c} \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$\psi_3(wb) = \begin{pmatrix} 1 & \binom{w}{a} & \binom{w}{ab} & \binom{w}{abc} \\ 0 & 1 & \binom{w}{b} & \binom{w}{bc} \\ 0 & 0 & 1 & \binom{w}{c} \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

For instance,

$$\binom{wb}{ab} = \binom{w}{a} + \binom{w}{ab}$$

◆□▶ ◆□▶ ◆ □▶ ◆ □▶ ○ □ ● ● ● ●

Also **generalized** Parikh mappings ψ_u , for all words $u \in A^*$, can be defined.

Let
$$u = u_1 \cdots u_\ell$$
.
If $\psi_u(a) = (m_{i,j})_{1 \le i,j \le \ell+1}$, then for each $i \in \{1, \ldots, \ell+1\}$,
 $m_{i,i} = 1$, and for each $i \in \{1, \ldots, \ell\}$,

$$m_{i,i+1} = \delta_{a,u_i},$$

all other elements of the matrix $\psi_u(a)$ being 0.

Remark

We get back to the 'classical' Parikh matrices with

$$u = a_1 a_2 \cdots a_k$$

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ▲□▶ ▲□ ◆ ○ ◆ ○ ◆

if $A = \{a_1, \ldots, a_k\}.$

We have

$$\psi_{abba}(a) = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}, \ \psi_{abba}(b) = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

◆□▶ ◆□▶ ◆ □▶ ◆ □▶ ○ □ ● ● ● ●

•

Natural generalization of the theorem of Mateescu et al.

THEOREM (Şerbănuță 2004)

Let $u = u_1 \cdots u_\ell$ and w a word. Let $\psi_u(w) = (m_{i,j})_{1 \le i,j \le \ell+1}$. Then, for all $1 \le i \le j \le \ell$,

$$m_{i,j+1} = \binom{w}{u_i \cdots u_j}.$$

In particular, the first row of $\psi_u(w)$ contains the coefficients corresponding to the prefixes of w:

$$\begin{pmatrix} w \\ \varepsilon \end{pmatrix}$$
, $\begin{pmatrix} w \\ u_1 \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} w \\ u_1 u_2 \end{pmatrix}$, ..., $\begin{pmatrix} w \\ u_1 \cdots u_{\ell-1} \end{pmatrix}$, $\begin{pmatrix} w \\ u \end{pmatrix}$.

Similarly, the last column of $\psi_u(w)$ contains the coefficients corresponding to the suffixes:

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ □ のQで

$$\binom{w}{u}$$
, $\binom{w}{u_2\cdots u_\ell}$, ..., $\binom{w}{u_1}$, $\binom{w}{\varepsilon}$.

Example

$$\psi_{abba}(w) = \begin{pmatrix} 1 & \binom{w}{a} & \binom{w}{ab} & \binom{w}{abb} & \binom{w}{abba} \\ 0 & 1 & \binom{w}{b} & \binom{w}{bb} & \binom{w}{bba} \\ 0 & 0 & 1 & \binom{w}{b} & \binom{w}{ba} \\ 0 & 0 & 0 & 1 & \binom{w}{a} \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

◆□ > ◆□ > ◆ 三 > ◆ 三 > ● ○ ● ● ●

Link between k-binomial equivalence and matrix equivalence

PROPOSITION

Over a 2-letter alphabet, two words are 2-binomially equivalent if and only if they have the same Parikh matrix.

$$\psi_2(w) = \begin{pmatrix} 1 & \binom{w}{a} & \binom{w}{ab} \\ 0 & 1 & \binom{w}{b} \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

 \Rightarrow clear !

 \Leftarrow

$$\begin{pmatrix} w \\ aa \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} |w|_a \\ 2 \end{pmatrix}$$
$$\begin{pmatrix} w \\ aa \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} w \\ ab \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} w \\ ba \end{pmatrix} + \begin{pmatrix} w \\ bb \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} |w| \\ 2 \end{pmatrix}$$

Unfortunately, we do not have more.

Two words over $\{a, b, c\}$,

u = abcbabcbabcbab and v = bacabbcabbcbba

Note: they do not have the same generalized Parikh matrix

 $\psi_{abb}(u) \neq \psi_{abb}(v).$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Erasing the c's, we get two words over $\{a, b\}$

u' = abbabbabbab and v' = baabbabbbba

- ▶ not 3-binomially equivalent : $\binom{u'}{abb} = 34$, $\binom{v'}{abb} = 36$
- BUT with the same Parikh matrix

$$\begin{pmatrix} 1 & 4 & 16 \\ 0 & 1 & 7 \\ 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

Indeed, 3-binomial equivalence is a strict refinement of 2-binomial equivalence.

(日)

Finally, two words over $\{a, b, c\}$

$$u = bccaa$$
 and $v = cacab$

- ▶ not 2-binomially equivalent: $\binom{u}{ca} = 4$ and $\binom{v}{ca} = 3$,
- BUT with the same Parikh matrix $\psi_3(u) = \psi_3(v)$.

$$\begin{pmatrix} 1 & 2 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 1 & 2 \\ 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

(日)

THEOREM (A. SALOMAA 2010)

Over a 2-letter alphabet A, two words have the same Parikh matrix if and only if one can be obtain from the other by a finite sequence of transformations of the form

 $x aby baz \rightarrow x bay abz$

where $a, b \in A$ and $x, y, z \in A^*$.

Recall, it also works for 2-binomial equivalence.

 $1011001001011 \equiv_2 1101001000111 \equiv_2 1100110000111$

 $\#[0\cdots 01\cdots 1]_{\equiv_2} = 1$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

$$\#(\{a,b\}^n / \equiv_2) = \frac{n^3 + 5n + 6}{6}$$

◆□ ▶ ◆□ ▶ ◆三 ▶ ◆□ ▶ ◆□ ▶

Remark

If $x \equiv_{k-1} y$, then

 $pxqyr \equiv_k pyqxr$

But it is not clear that the previous result can be generalized.

Over a 3-letter alphabet:

 $2100221 \equiv_2 0221102$

▲ロ ▶ ▲周 ▶ ▲ 国 ▶ ▲ 国 ▶ ● ● ● ● ● ●

but 2100221 cannot be factorized into pxqyr with $x \equiv_{ab} y$.

QUESTIONS

Avoidance is a classical topic in COW (back to Thue early 1900).

- ▶ #A = 2, any word of length ≥ 4 contains a square uu
- #A = 2, cubes (even overlaps) can be avoided

• #A = 3, squares can be avoided

$$0 \mapsto 012, \ 1 \mapsto 02, \ 2 \mapsto 1$$

- #A = 3, abelian squares are unavoidable
- #A = 4, abelian squares can be avoided (V. Keränen)
- #A = 3, abelian cubes can be avoided (F. M. Dekking)

We can define a 2-binomial square uv where $u \equiv_2 v$

"abelian square \prec 2-binomial square $\prec \cdots \prec$ square"

- squares are avoidable over a 3-letter alphabet
- abelian squares are avoidable over a 4-letter alphabet

 \rightsquigarrow are 2-binomial squares avoidable over a 3-letter alphabet?

 $0 \mapsto 012, \ 1 \mapsto 02, \ 2 \mapsto 1$

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ □ ● ●

Remark: k-binomial squares avoidable over a 3-letter alphabet, $\forall k \geq 2$.

We can define a 2-binomial square uv where $u \equiv_2 v$

"abelian square \prec 2-binomial square $\prec \cdots \prec$ square"

- squares are avoidable over a 3-letter alphabet
- abelian squares are avoidable over a 4-letter alphabet

 \rightsquigarrow are 2-binomial squares avoidable over a 3-letter alphabet?

 $0 \mapsto 012, 1 \mapsto 02, 2 \mapsto 1$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Remark: k-binomial squares avoidable over a 3-letter alphabet, $\forall k \geq 2.$

We can define a 2-binomial cube uvw where $u\equiv_2 v$, $v\equiv_2 w$

abbabaabbaab

"abelian cube \prec 2-binomial cube \prec \cdots \prec cube"

- cubes are avoidable over a 2-letter alphabet
- abelian cubes are avoidable over a 3-letter alphabet
- \rightsquigarrow are 2-binomial cubes avoidable over a 2-letter alphabet?

 $0\mapsto 001,\ 1\mapsto 011$

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ □ ● ●

M. Rao, M. Rigo, P. Salimov, Avoiding 2-binomial squares and cubes, *Theoret. Comput. Sci.* **572** (2015), 83-–91.

We can define a 2-binomial cube uvw where $u\equiv_2 v$, $v\equiv_2 w$

abbabaabbaab

"abelian cube \prec 2-binomial cube \prec \cdots \prec cube"

cubes are avoidable over a 2-letter alphabet

abelian cubes are avoidable over a 3-letter alphabet

 \rightsquigarrow are 2-binomial cubes avoidable over a 2-letter alphabet?

$$0 \mapsto 001, \ 1 \mapsto 011$$

M. Rao, M. Rigo, P. Salimov, Avoiding 2-binomial squares and cubes, *Theoret. Comput. Sci.* **572** (2015), 83-–91.

Sakarovitch and Simon already asked how to better characterize or evaluate $\#(A^n/\sim_k)$ where \sim_k is the Simon congruence.

- Given k ≥ 1 and two words u, v of length n decide, in polynomial time w.r.t. n, k, whether or not u ≡_k v.
- Given $k \ge 1$ and two words w, x

find, in polynomial time, all occurrences of factors of wwhich are k-binomially equivalent to x.

• Given two u, v of length n,

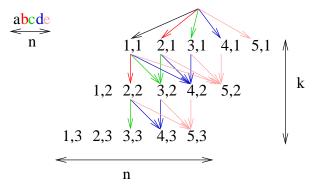
find the largest k such that $u \equiv_k v$.

Also, see k-abelian pattern matching, T. Ehlers, F. Manea, R. Mercas, D. Nowotka, DLT 2014. (in linear time)

Main ideas of the paper 'Testing k-binomial equivalence' arXiv:1509.00622 D. Freydenberger *et al.*

We consider the first question.

First answer, given a word w of length n and an integer $k \rightsquigarrow$ build a NFA $A_{w,k}$ with nk + 1 states

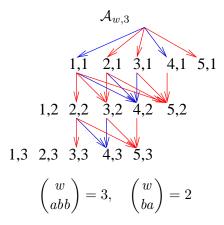


・ロット (雪) ・ (日) ・ (日)

э

- All states are final,
- \blacktriangleright accepts exactly the subwords of w of length $\leq k$
- a subword x is accepted $\binom{w}{x}$ times !

$$w = abbab, k = 3$$



▲ロト▲御ト▲臣ト▲臣ト 臣 の父(で)

Two automata are **equivalent** if they accept the *same language* with *the same multiplicities*.

Given two words u, v

- ▶ build $A_{u,k}$ and $A_{v,k}$
- $u \equiv_k v$ reduces to 'are $\mathcal{A}_{u,k}$ and $\mathcal{A}_{v,k}$ equivalent ?'

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ □ ● ●

W. Tzeng, SIAM J. Computing 1992

 \rightsquigarrow polynomial algorithm, at least in $n^3.\ldots$

From Tzeng's paper abstract:

Two probabilistic automata are equivalent if for any string x, the two automata accept xwith equal probability. This paper presents an $\mathcal{O}((n_1 + n_2)^4)$ algorithm for determining whether two probabilistic automata U_1 and U_2 are equivalent, where n_1 and n_2 are the number of states in U_1 and U_2 , respectively.

• S. Kiefer, A. S. Murawski, et al. On the complexity of the equivalence problem for probabilistic automata, LNCS **7213** (2012), 467–481.

• M.-P. Schützenberger, *On the definition of a family of automata*, Inf. and Control, 245–270, 1961. (about the minimization of weighted automata)

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

Second answer, a randomized algorithm

DEFINITION

Given a word $w \in \{0,1\}^*$ of length n and an integer k,

$$Q_{w,k}(X) := \sum_{v \in A^{\leq k}} {\binom{w}{v}} X^{val_2(1v)}$$

$$Q_{0010,2}(X) = X + 3X^2 + X^3 + 3X^4 + X^5 + X^6$$

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ - 三 - のへぐ

Similar to the k-spectrum, it contains full information.

EXAMPLE

The 2-spectrum of the word abbab is $1\underbrace{\varepsilon}_{1} + 2\underbrace{a}_{10} + 3\underbrace{b}_{11} + \underbrace{aa}_{100} + 4\underbrace{ab}_{101} + 2\underbrace{ba}_{110} + 3\underbrace{bb}_{111}.$

$$Q_{01101,2}(X) = X + 2X^2 + 3X^3 + X^4 + 4X^5 + 2X^6 + 3X^7.$$

Remark

 $Q_{w,k}$ is of degree

$$val(1\underbrace{1\cdots 1}) = 2^{k+1} - 1$$

▲□▶ ▲□▶ ▲三▶ ▲三▶ - 三 - のへぐ

k times

 \rightsquigarrow grows exponentially with k.

Remark

Two words u, v are k-binomially equivalent if and only if

$$Q_{u,k}(X) = Q_{v,k}(X).$$

At first glance, we need to compute all the coefficients !

Let p be a (well-chosen) large prime, $Q_{u,k}(X)$ and $Q_{v,k}(X)$ can be seen as polynomials over $\mathbb{F}_p[X]$

If $u \not\equiv_k v$, then $Q_{u,k}(X) - Q_{v,k}(X)$ is a non-zero polynomial of degree d and has at most d roots. If we randomly choose $\alpha \in \mathbb{F}_p$,

$$\mathbb{P}((Q_{u,k} - Q_{v,k})(\alpha) = 0) \le d/p.$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

If $u \equiv_k v$, then $Q_{u,k}(X) - Q_{v,k}(X) = 0$. For all $\alpha \in \mathbb{F}_p$, $Q_{u,k} - Q_{v,k}(\alpha) = 0$

Remark

Two words u, v are k-binomially equivalent if and only if

$$Q_{u,k}(X) = Q_{v,k}(X).$$

At first glance, we need to compute all the coefficients !

Let p be a (well-chosen) large prime, $Q_{u,k}(X)$ and $Q_{v,k}(X)$ can be seen as polynomials over $\mathbb{F}_p[X]$

If $u \not\equiv_k v$, then $Q_{u,k}(X) - Q_{v,k}(X)$ is a non-zero polynomial of degree d and has at most d roots. If we randomly choose $\alpha \in \mathbb{F}_p$,

$$\mathbb{P}((Q_{u,k} - Q_{v,k})(\alpha) = 0) \le d/p.$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

If $u \equiv_k v$, then $Q_{u,k}(X) - Q_{v,k}(X) = 0$. For all $\alpha \in \mathbb{F}_p$, $Q_{u,k} - Q_{v,k}(\alpha) = 0$ Assume that d/p is 'small', then randomly pick $\alpha \in \mathbb{F}_p[X]$. Assume that we can 'easily' compute $Q_{u,k}(\alpha)$ and $Q_{v,k}(\alpha)$.

- ▶ If $Q_{u,k}(\alpha) \neq Q_{v,k}(\alpha)$, then $u \not\equiv_k v$. \rightsquigarrow The algorithm returns $u \not\equiv_k v$.
- ▶ If $Q_{u,k}(\alpha) = Q_{v,k}(\alpha)$, then almost surely $u \equiv_k v$. \rightsquigarrow The algorithm returns $u \equiv_k v$.

We have $Q_{u,k}(\alpha) = Q_{v,k}(\alpha)$ and $u \not\equiv_k v$, only when we have picked a root of the non-zero polynomial $(Q_{u,k} - Q_{v,k})(X)$. \rightsquigarrow We could have a wrong conclusion $u \equiv_k v$ when $u \not\equiv_k v$, with probability at most d/p.

Choice of p ?

The coefficients in $Q_{w,k} \in \mathbb{F}_p[X]$ are less than n^k , indeed

$$\binom{a^n}{a^k} = \binom{n}{k} = \frac{n(n-1)\cdots(n-k+1)}{k!} < n^k$$

Take a prime
$$p \in [n^k, 2n^k]$$

▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ ▲□▶ □ のQで

This is not an issue for polynomial running time:

- AKS polynomial in log(n)
- probabilistic test of Miller–Rabin, deterministic if Riemann hypothesis holds.

 $Q_{w,k}(X)$ is of degree $2^{k+1}-1$ and $p\geq n^k$

probability of error :
$$\frac{d}{p} \leq \frac{2^{k+1}-1}{n^k} \stackrel{n \to +\infty}{\longrightarrow} 0$$

For long enough words u, v, we are fairly sure of the result of the algorithm when it returns ' $u \equiv_k v'$.

◆□▶ ◆□▶ ◆三▶ ◆三▶ - 三 - のへぐ

MAIN RESULT FOR THIS ALGORITHM

Let w be a word of length n. Let $\alpha \in \mathbb{F}_p$. The value $Q_{w,k}(\alpha)$ can be computed in $\mathcal{O}(k^2n)$ time.

$$Q_{w,k}(X) = \sum_{|v| \le k} \binom{w}{v} X^{val_2(1v)} = \sum_{\ell=1}^k X^{2^\ell} \left(\underbrace{\sum_{|v|=\ell} \binom{w}{v} X^{val_2(v)}}_{=:R_{w,\ell}(X)} \right)$$

▲□▶ ▲□▶ ▲ 三▶ ▲ 三▶ 三 のへぐ

 \rightsquigarrow We need to determine the $R_{w,\ell}(\alpha)$ for all $\ell \in \{1,\ldots,k\}$

 $w = w_1 \cdots w_n$ $w[i, n] = w_i \cdots w_n$

Use dynamic programming to compute the following $k \times n$ table and the values

 $R_{w[i,n],t}(\alpha), \quad i \in \{1, \dots, n\}, t \in \{1, \dots, k\}$

 $R_{\underbrace{w[n+1,n]}_{=\varepsilon},t} = 0 \text{ if } t > 0; R_{w[i,n],0} = 1 \text{ for all } 1 \le i \le n+1$

 $R_{w[i,n],t}, \ i \leq n, \ t \geq 1,$ depends only on $R_{w[i+1,n],t}$ and $R_{w[i+1,n],t-1}$

Let
$$i \leq n, t \geq 1$$
, we have

$$R_{w[i,n],t}(X) = R_{w[i+1,n],t}(X) + R_{w[i+1,n],t-1}(X), \text{ if } w_i = 0$$

$$R_{w[i,n],t}(X) = R_{w[i+1,n],t}(X) + X^{2^t} R_{w[i+1,n],t-1}(X), \text{ if } w_i = 1$$

Recall that

$$R_{w[i,n],t}(X) = \sum_{|v|=t} \binom{w_i \cdots w_n}{v} X^{val_2(v)}$$

$$\underbrace{R_{w[i,n],t}(X)}_{\downarrow} = R_{w[i+1,n],t}(X) + R_{w[i+1,n],t-1}(X), \text{ if } w_i = 0$$

$$\begin{split} \sum_{|v|=t} {\binom{0w_{i+1}\cdots w_n}{v} X^{val_2(v)}} & v \text{ starts with 0 or 1} \\ &= \sum_{|u|=t-1} {\binom{0w_{i+1}\cdots w_n}{0u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{0w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} \\ &= \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{u} X^{val_2(u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{0u} X^{val_2(0u)}} \\ &+ \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(u)}} \\ &+ \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{0u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(0u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)}} } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} } } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} + \sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{val_2(1u)} } } } \\ &= \underbrace{\sum_{|u|=t-1} {\binom{w_{i+1}\cdots w_n}{1u} X^{va$$

-

Summary

- Computing one element $R_{w[i,n],t}(\alpha)$ of the table is just one addition in \mathbb{F}_p and $p \sim n^k$. It requires $\mathcal{O}(\log p) = \mathcal{O}(k \log n)$ — classical finite field arithmetic
- We have to compute $k \times n$ such elements $\rightsquigarrow \mathcal{O}(k^2 n \log n)$
- Finally, we compute

$$Q_{w,k}(\alpha) = \sum_{\ell=1}^{k} \alpha^{2^{\ell}} R_{w,\ell}(\alpha)$$

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・

k products, each one needs $\mathcal{O}(\log^2 p) = \mathcal{O}(k^2 \log^2 n) \rightsquigarrow \mathcal{O}(k^3 \log^2 n)$

- P. Karandikar, M. Kufleitner, Ph. Schnoebelen. On the index of Simon's congruence for piecewise testability, *Information Processing Letters* 15 (2015), 515–519.
- J. Maňuch, Characterization of a word by its subwords, in:
 G. Rozenberg, W. Thomas (Eds.), Developments in Language Theory, World Scientific Publ. Co., Singapore, 2000, pp. 210–219.
- A. Mateescu, A. Salomaa, K. Salomaa, Yu Sheng, A Sharpening of the Parikh Mapping, *RAIRO-Theoretical Informatics and Applications* **35** (2001), 551–564.
- M. Rigo, P. Salimov, Another generalization of abelian equivalence: Binomial complexity of infinite words, *Theoret. Comput. Sci.* 601 (2015), 47–57.

- J. Sakarovitch, I. Simon, Subwords, in: M. Lothaire (Ed.), Combinatorics on Words, Addison-Wesley, Reading, MA, 1983, pp. 105–142.
- A. Salomaa, Counting (scattered) subwords, EATCS Bull. 81 (2003) 165–179.
- A. Salomaa, Connections between subwords and certain matrix mappings, *Theoret. Comput. Sci.* 340 (2005) 188–203.

◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ ◆□▶ □ ● ●

- ► A. Salomaa, Criteria for the matrix equivalence of words, *Theoret. Comput. Sci.* **411** (2010) 1818–1827.
- T.-F. Şerbănuţă, Extending Parikh matrices, *Theoret.* Comput. Sci. 310 (2004), 23–246.

16th Mons TCS Days — Liège September 5th – 9th, 2016 http://www.cant.ulg.ac.be/jm2016/

4th CANT School & Conference — CIRM, Marseille Combinatorics, Automata and Number Theory November 28th – December 2nd, 2016 http://www.cant.ulg.ac.be/cant2016/ http://scientific-events.weebly.com/1502.html

・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・
 ・